来年４月供用開始　Ｊヴィレッジ近くに開設の新駅

　双葉地方町村会と県、ＪＲ東日本は２８日、Ｊヴィレッジ（楢葉町、広野町）近くに開設する常磐線の新駅について、施設の全面再開に合わせて来年４月に供用開始すると発表した。イベント開催時などに停車する臨時駅とし、駅前に広場を整備する。同日、三者が楢葉町コミュニティセンターで協定書に締結し、新駅建設を正式決定した。

　新駅は県道に接し、広野駅から仙台方向に約３・５キロ、木戸駅から東京方向に約１・９キロの場所。楢葉町と広野町にまたがり、Ｊヴィレッジの入り口まで徒歩２分、宿泊棟まで徒歩１０分程度で行くことができる。ホームは約２１０メートルで、特急も停車可能な１０両分の長さがあり、スロープとエレベーターにより車いすでも円滑に乗降できる。約４００平方メートルの駅前広場も整備する。

　新駅は５月に着工する予定。整備事業費の約１５億円は双葉地方町村会、県、ＪＲ東日本が３分の１ずつ負担する。駅前広場の整備費用は所在地である楢葉町が負担する。

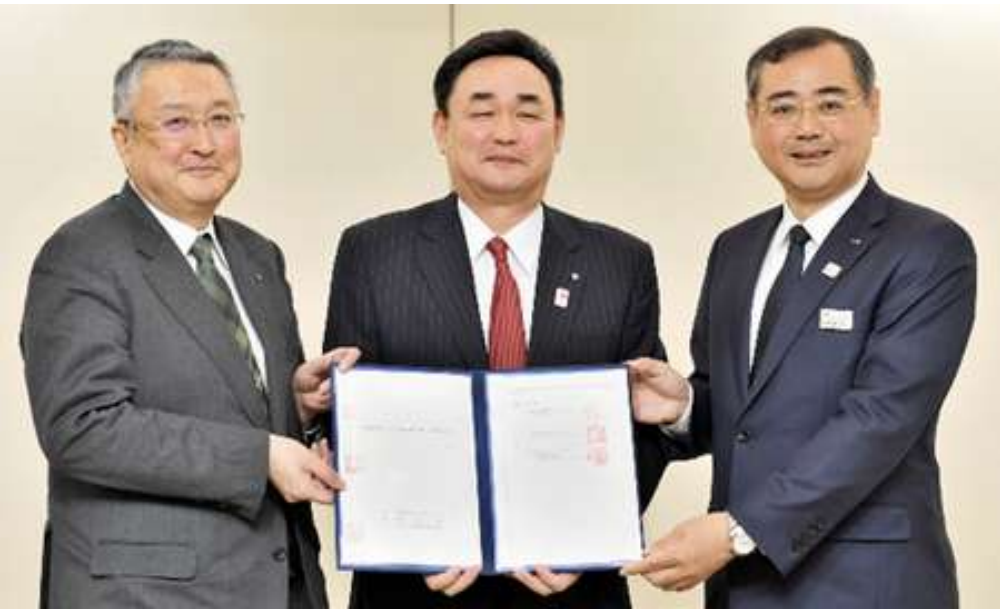
　駅名は、双葉地方町村会や県が要望している「Ｊヴィレッジ駅」などを含めて検討している。ダイヤは調整中で、イベントなどが開催される休日を中心に利用できるようにする。

　締結発表では、双葉地方町村会長の松本幸英楢葉町長、鈴木正晃副知事、ＪＲ東日本の輿石逸樹水戸支社長が基本協定書を取り交わした。松本町長は「Ｊヴィレッジは１００万人を超える交流人口を生むと期待している。新駅が双葉郡全体の復興に大きく寄与すると確信している」と述べた。

　東北運輸局は２８日、ＪＲ東日本に対し新駅設置を認可した。

（ 2018/03/29 10:15 カテゴリー：主要 ）

Jヴィレッジ（左奥）を含めた新駅（右手前）と完成予想図。新駅から施設入り口まで徒歩2分で行くことができる



基本協定書を締結した（右から）輿石水戸支社長、松本会長、鈴木副知事＝28日午前、楢葉町